

- 1 琉球の航海のよう甘蔗(きび)穂波
- 2 だきしめたしまはまるごとみなみかぜ
- 3 權となる血潮の腕(かいな)島を漕ぐ
- 4 おーい!海は全校生徒の体操
- 5 葡萄食う一球一球を噛みしめる
- 6 蓑虫の揺れる一球の大接戦
- 7 月も日も奪い合うラガーの鍵盤
- 8 ゆううつ鳩の頭はダリの時計
- 9 阿麻和利(あまわり)の本音がはらり鬼餅寒(ムーチビーサ)
- 10 太陽(テイダ)おちて月の穴掘る蟹の笛
- 11 ケータイの螢鳥賊とぶ街は楽器
- 12 昇天の虹の抜け殻廃タイヤ
- 13 寒月の虎穴へ入る回転ドア
- 14 鶏頭が燈り肺胞燃え上る
- 15 光年の一筆書きの蝸牛
- 16 入道雲歩む大理石の海
- 17 琉球弧を食らった顔の島蜥蜴(タツカンジュウ)
- 18 太陽がいつぱい天道虫の恋
- 19 しらさがぎが鍵穴のよう埋立地
- 20 とぼとぼと影も雫もない炎天
- 21 忘却のナイフ齡の唐辛子
- 22 少年のギブスは恐竜の卵
- 23 能面がいきいき迫る水馬
- 24 虻という春の破壊者ピカソ展
- 25 スタートダッシュ画面いつぱいの渡り鳥
- 26 蜥蜴の尾いつしか振り子の島になる
- 27 もう会えぬ石投げ遊びの銀漢
- 28 千羽鶴指紋の海を宿してく
- 29 蟋蟀が星のさざ波の光源
- 30 艦砲の雨は鶏頭数多咲く
- 31 蛙鳴くそれは銀河の膨張音
- 32 芒野は戦没者数量れるか
- 33 戦跡の百足の語尾は消されてく
- 34 飛蝗とぶ戦闘機らの翻り
- 35 オキナワの空は俎板痕ですか
- 36 蝸牛踏んで喪中のカフカなり
- 37 基地背負う牛の背朝日煙り行く
- 38 爆音が焦がす瞳の水溜り
- 39 泡盛の氷河へどっぷり月沈む
- 40 竜の舌転がる暗黒花アロエ
- 41 ランドセル揺られて並ぶ原潜
- 42 逃げ水がテロも戦も孕んでいる
- 43 夕日入れ買い物袋の団らん
- 44 星ほうれ自分忌の海がらんど
- 45 闇を剥ぐキャベツの芯は核の渦
- 46 花ゆうな祈りの岬の弦弾く
- 47 手のひらの宇宙を開く赤ん坊
- 48 傷を縫う鷗らの白い影
- 49 密約の核冬薔薇の渦を巻く
- 50 人類はあやまちばかり蛾の乱舞

- 51 八月の水平線をかき鳴らす
- 52 青蛙ニライカナイの地図をとぶ
- 53 サヨナラモイエナイツイシンサクラガイ
- 54 鮮やかな原野遺骨に星のさざなみ
- 55 とたんに凍る啓蟄の不発弾
- 56 艦砲の空を吸い込むテッポウユリ
- 57 ぱちぱち喝采が呼ぶ家電の鮫ら
- 58 祖母眠る山河は海へ歌い出す
- 59 骨拾う珊瑚の欠片と星屑
- 60 増税ばかりの蛙の目だけ浮く
- 61 蝙蝠の晚餐JAZZの月光圏
- 62 米を研ぐ銀河の渦が冷たい
- 63 落鮎の白い眠りへ落ちてゆく
- 64 葡萄食う恋煩いの種残す
- 65 震源は僕らの鼓動地球鳴る
- 66 遠泳の西瓜の種に恋もあり
- 67 蒲公英の綿毛はどれも決意です
- 68 父母が寝る村鮮やかな星の蕊
- 69 つぶやきのレッスン群衆の砂です
- 70 ゆで卵叶わぬ恋の唄ですか
- 71 銀河の線路へオオバコの足音
- 72 流星のしづく釈迦の手のクワズイモ
- 73 この恋と決めて私は花キリン
- 74 梅干しのように強烈我が故郷
- 75 渡り鳥レノンの眼鏡に銃光る
- 76 さあ！出帆のカチャーシー（手踊り）の海だ甘藷（いも）畑
- 77 踊れ（モーレ）踊れ（モーレ）踊れ（モーレ）苦瓜（ゴーヤー）蔓が風掴む
- 78 食卓にどっどっどと並ぶオスプレイ
- 79 牛蒡抜きされてく草の民の声
- 80 オスプレイ配備拒んで鳳仙花
- 81 林檎浮く不安募らす街は断層
- 82 鈴虫が漁網の中で鳴いている
- 83 末端を先端にする針千本（アバサー）です
- 84 たましいを抱いて芒の村揺れ
- 85 炎帝のオペラのような蟬は滝
- 86 熟睡のアダンが燈る夕闇（アコークロー）
- 87 蓮の花君が逝くのをおろおろ揺らす
- 88 玉砕の島は今でも花芙蓉
- 89 日光も月光も織る波のアヤハベル（*『おもろそうし』の蝶の古語）
- 90 天体も五体も綿毛の音符よ
- 91 十五夜の釘の天辺は我が孤島
- 92 曼珠沙華心の刃捨てちまえ
- 93 死者光るどれも落ち葉のバレリーナだ
- 94 誕生も死もサイダーの星残る
- 95 琉球の国境線なら海蛇（イラブー）です
- 96 父が刈る虫の音だけの村残し
- 97 沖縄の虹の根ひっばる大綱引き
- 98 国境線シロツメグサがぬりかえる
- 99 鮮やかな琉球弧なり日焼け剥ぐ
- 100 島響（とよ）むエイサー太鼓の月と太陽（テイダ）